



五泉市立愛宕小学校

学校データ

【学級数】

14 学級

【児童生徒数】

251 人

【地域コーディネーターの有無】

無

愛宕のシンボル・忠犬タマ公から「愛宕愛」を育む

1 はじめに

当校は、村松東小学校、川内小学校の2校を統合し、8年目を迎える。

広域の学区となり、地域間の関わりが薄く、愛宕小学校区が心をつなぐ地域を愛する心「愛宕愛」が、まだ強固なものになっていない。いかに意識を高揚させるかが課題である。

当校では、総合的な学習の時間を中核に置き、「愛宕愛」を育む活動を行っている。地域の歴史や自然、文化からつないでいくべき伝統や浮き彫りとなった課題をそれぞれの学級での授業で考え、課題解決に向けて取り組んでいる。

その際に必要な力が対話をする力である。さまざまな人かかわり、対話から議論が深まる。課題を仲間と追究する過程で対話を大事にし、解決のための行動ができる児童の育成を目指し、教育活動を展開することが重要である。

そこで、愛宕小学校区のシンボル「忠犬タマ公」の学習を通して、主体的に課題が解決できる力を身に付けられるよう本実践に取り組んだ。

2 取組の実際（3年生）

当校では、地元地域の方で組織する忠犬タマ公委員会との協働連携による教育活動を推進している。忠犬タマ公委員会の方からは、児童の学習への支援をいた

だいている。

①タマ公に関する資料提示や講話

②児童の学習の様子をメディア発信

地域と連携を図っていくことで、学習の幅を広く進めることができ、児童の「愛宕愛」が深められ、地域のために役割を果たす地域貢献の心も育まれてきている。

忠犬タマ公の逸話の概略

タマ公は昭和3年に川内村（現在の五泉市中川原）で猟師の刈田吉太郎の家に生まれた。2度にわたり、主人を雪崩から助けた。当時横須賀市に在住していた本県出身の海軍関係者が、石碑を建立した。この縁から交流を深め五泉市にあるタマ公像の隣に建立されている石碑の揮毫は、小泉純一郎元総理である。

以下、第3学年総合的な学習の時間「忠犬タマ公から学ぶ」の学習の様子を紹介する。

(1) 4年生からの「タマ公の引継ぎ式」

4月、昨年度「タマ公の学習」を進めた4年生から「タマ公ミュージカル」を基に、タマ公への思いを聞いた。タマ公の偉大さを実感するとともに、タマ公の学習に対する学びに向かう力をもつことができ、意味のある活動となった。

(2) 忠犬タマ公委員会の方の講話

忠犬タマ公委員会の方からタマ公の様子、刈田さんの暮らしなどの話を聞く学習を設定した。児童の学びから出た質問に答えてもらい、タマ公が暮らしていた様子や雪崩があったときの様子などを詳しく知ることができた。児童とタマ公委員会の方との対話が深まることで、より意欲的に学習を進めることができた。



タマ公委員会の方の講話

(3) タマ公像をきれいにする活動

愛宕小前，新潟駅，白山公園などにある「タマ公像をきれいにする活動」を行った。学習を進めていく中で「タマ公像をきれいにしたい」という児童の願いのもと，タマ公委員会の方々にもお手伝いいただいた。タマ公を磨く学習の中で，石碑の言葉に気付き，総理大臣がタマ公像に関わっていることを知り，タマ公の偉大さを多くの児童が強く感じることができた。



タマ公像をきれいにする活動

(4) 発信！「タマ公ミュージカル」

10月の学習発表会でこれまで学習してきたタマ公の逸話を，「大事にすれば大事にされる」考えを大切に，地域の方へミュージカル形式で発信した。



タマ公ミュージカルでの様子

(5) 県内へ発信！「愛宕のタマ公」

忠犬タマ公委員会の方と連携を図り，メディアなどを使い，児童が学習してきた「愛宕のタマ公」を発信して取り上げてもらった。多くの人にタマ公を知ってもらうことでタマ公が愛宕の宝であり，これからも大事にしていこうという児童

や地域の「愛宕愛」が深まった。



テレビで発信された忠犬タマ公の学習

3 成果と課題及び本実践で育成された資質・能力

本実践を通して，児童は，地域への興味・関心を高め，忠犬タマ公委員会の方（地域の方）との結びつきを強くした。地域の方との関わりの中で，タマ公を大事にしてほしいという地域の方の願いや「タマ公をもっと広めるために」という課題に対して，アドバイスをいただいたり，質問をしたりすることなどを通して，双方向のコミュニケーションが図られ，解決のための行動がなされた。

本実践で育成された資質・能力は，忠犬タマ公委員会と協力し，「タマ公についてよく知ろう，もっと広めよう」という課題解決に取り組もうとする学びに向かう力・人間性等が特に養われたと考える。

本実践は，「タマ公をより知っていく，考えていくための技法」を効果的に活用し，思考する力を身に付けることに課題が残った。考えるための手段は，①資料②タマ公委員会の方から情報収集することで授業を展開した。さらにタマ公を知る方法に関連させて考えていくことが，地域と学校とで連携しよりよい地域を創っていく一つになると考える。

4 おわりに

学校と地域・家庭が連携し，地域の宝である子どもを共に育てる教育を実現すべく，手を取り合って考えを出し合い，協働して教育活動を推進していくことが子どものより良い成長につながる。